

# 図書館のコロナウイルス対策について

図書館情報センター 図書館事務室長 嶋本 典子

令和2年は記録に残る1年となりました。「新型コロナウイルス」の世界的流行により、人々は普通だと思っていた「日常」の多くを我慢することを強いられました。大学図書館の利用にも制限が生じ、1年を経た現在も解消していません。その中でも、本学図書館が少しでも安心して利用いただくためにどのような対策を行っているか、紹介させていただきます。

まずは換気です。自動である入口扉を常時開放し、密閉を避け館内空気が滞留しないように心がけています(写真①)。次に体調管理と手指の消毒です。マスク着用を必須としているほか、発熱時には利用をご遠慮いただきますが、入館前に確認できるように、入館ゲート前に非接触の体温計(写真②)を設置したり、各階に消毒液を設置しています。密接・密集を避けるためには、物理的な設置を減らしたり、使用しない座席を設定(写真③)するなどして、閲覧席を削減しています。ラーニング・コモンズ(写真④)も現在は1人席のみとして提供し、ディスカッションやグループワークができなくなりました(写真⑤)。

ウイルスとの接触を避けるため、館内設備や資料のアルコール消毒を行ってきました。閲覧席や常設しているPC・OPAC 端末などの清拭を朝と午後に行いましたし、カウンターで貸し出すPCは返却の際に清拭するようにしました。また返却された資料は勿論、館内で利用された資料(返却台に戻されるので区別できるのです)も一旦事務室に集め、清拭後に配架するようになりました。当初に比べ、わたした

ちの日常に「消毒」の意識が高まったことから、この4月からは館内設備の清拭については利用者ご自身で、納得できるまで行っていただくことに変更します(写真⑥)が、資料の清拭についてはまだ当分は職員で継続の予定です。

開館スケジュールも変則的になっています。大学休業要請中の臨時休館は異例ですが、対面授業再開後も、授業後の長時間滞在を避けるため、閉館時間を18時15分に短縮したり、土曜日の休館や試験・卒業論文のための延長開館を取りやめるなどの措置を取りました。また、多くの方との接触を避けるため、学生・教職員以外の方の来館はお断りしております。

これまで対象とさせていただいてきたほとんどの利用者にご不便をおかけしている状態ですが、在学生には館内資料の郵送貸出・複写郵送、メールでのレファレンスなどを、臨時休館時に開始しました。対面授業が実施されていても、通学や学内での活動に不安を感じる学生もいると考え、今も継続しています。これにより、制約はありますが、来館せずに図書館を利用することが可能です。また、VPN接続の案内を強化し、データベースの学外からの利用も促しています。

まだ先の見えない新型コロナウイルスとの闘い(共存?)の途中ですが、サービス拡大希望のご意見を伺うと、図書館への期待を感じます。今後も、対策を講じながら学生の知的好奇心をサポートすることができますよう、お力添えいただければ幸いです。

写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

